

令和 3 年度 学校経営計画

1 学校教育目標

障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する力を養い、友愛の中に自己を実現し、社会的に自立する明るくたくましい人間を育成する。

〈校訓〉 ○仲よく楽しく学びましょう ○恐れずくじけず励みましょう ○明るく正しく生きましょう

2 学校の特徴

- ・聴覚に障害のある幼児児童生徒と軽度の知的障害のある高等部の生徒が、障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服し、自立して社会参加することや、共に学び、共に生活して、地域社会で活躍することを目指して学んでいる。
- ・聴覚障害のある生徒を対象とした、幼稚部、小学部、中学部、高等部、高等部専攻科があり、幼稚部には0歳、1歳、2歳児のための乳幼児教室がある。また、軽度知的障害のある生徒を対象として、高等部に福祉・サービス科を設置している。
- ・個別の教育支援計画及び個別の指導計画を作成し、一人一人の教育的ニーズに応じた教育を行っている。
- ・コミュニケーション能力を養い、社会性や望ましい人間関係を育てるために、それぞれの学部が地元の保育園や学校と交流活動を行っている。
- ・聴覚障害教育センターとして、幼稚園・保育園・こども園、小・中・高等学校、特別支援学校に在籍する聴覚障害児及び卒業生を含む成人聴覚障害者を支援している。
- ・中学部・高等部の生徒全員が卓球部に所属し、北陸地区聾学校体育連盟・中学校体育連盟・高等学校体育連盟主催の各大会に参加している。

3 学校の現状と課題

ア 現状

- ・聴覚口話法を基本とし、個々の実態に応じた有効なコミュニケーション手段（手話、指文字、筆談等）を用いて、コミュニケーション能力の育成を図っている。
- ・医療体制の充実による障害の早期発見や地域の学校への進学等により、幼児児童生徒数が減少し、一人学級、少人数学級が多く、集団による学習活動が難しくなっている。
- ・障害の重度・重複化、多様化により、幼児児童生徒の個々の教育的ニーズに応じた教員の指導力の向上が求められる。
- ・聴覚障害生徒の高等部卒業後の進路選択として、就職だけでなく専攻科や大学への進学希望者が増えてきている。軽度知的障害生徒の就労支援を含め多様な進路希望に対応するために、個々に応じた進路指導の充実が求められる。また、社会の変化に対応し、必要な情報を適切に活用しながら質の高い生活ができる力を育てる必要がある。
- ・医療的ケアの幼児児童生徒が在籍しており、指導医、主治医、保護者、担任、養護教諭、看護師等が連携を密にし、安全な医療的ケアの実施に努めている。
- ・聴覚障害教育センターとして、地域の聴覚障害幼児児童生徒が在籍する学校への支援が求められており、聴覚障害教育における専門性の維持・向上が必要である。
- ・防災や感染症予防など、緊急時における校内の体制づくりに努め、危機管理に対する対応力を強化する必要がある。

イ 課題

- ・なりたい自分を目指して主体的に学び行動できる児童を育てるための支援の在り方
- ・児童生徒の実態や発達段階に応じた情報モラル教育の推進
- ・主体的な学びにつながるICT機器を活用した授業実践の推進

4 学校教育計画

項目		目標・方針及び計画			
1	学習活動	教育課程 (教務部)	目標	○効果的な指導計画の作成・活用・評価のために、個別の教育支援計画、個別の指導計画、成績関係書類等の関連を整理し、作成に取り組む。	
			計画	<ul style="list-style-type: none"> ・法令等の根拠を参照しながら進める。 ・インターネットや市販本、他校等から情報を収集する。 ・各学部と意見交換し合意形成しながら様式や作業手順の検討を行う。 	
		教科指導 (幼稚部)	目標	○遊びを通して興味・関心を広げ、人と関わる力を高める支援の在り方	
			計画	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育の視点で遊びを捉え直し、将来のどのような姿につなげていくかを教員間で共通理解し支援を進める。 ・幼児の興味・関心が広がる活動や内容について検討し計画・設定する。 ・幼児の発達段階に応じて、キャリアパスポートの内容や活用の仕方について検討し、人と関わる力を高める支援に活用していく。 	
		教科指導 (小学部)	重点1 計画	目標	○なりたい自分を目指して <u>主体的に学び行動できる児童を育てる支援の在り方</u> を探る。
				計画	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア発達の視点で、児童一人一人の学ぶ力、関わる力、問題解決力、社会性の段階や課題を明らかにし、個に応じた指導・支援を行う。 ・児童が<u>夢や「なりたい自分」に近づくために、具体的な目標を設定したり自己を振り返ったりできるような取組を検討し、キャリア・スキルチェック表を活用</u>する。 ・ICT機器を活用し、児童が情報を収集し活用する力やコミュニケーション力等、主体的で深い学びを支える指導・支援の在り方を検討する。
	教科指導 (中学部)	目標	○生徒が自分の力を生かして学び続けるための指導・支援の在り方を探る。		
		計画	<ul style="list-style-type: none"> ・「なりたい自分」に近づくための目標設定や振り返りの機会をもち、目標達成までの取組の過程から自己の成長を実感できるように、キャリア・パスポートを活用する。 ・生徒が目標を達成できるように、必要な支援や減らしていく支援について教員間で共通理解を図る。 		
	教科指導 (高等部)	目標	○生徒が自己実現を目指し、自己肯定感を高めながら主体的に学んだり、自己決定したりするための支援の工夫に取り組む。		
		計画	<ul style="list-style-type: none"> ・進路学習や行事に関する事前事後学習を行う中で、キャリア・パスポートを作成・活用し、目標を明確にして自己を振り返ると共に、次の取組への意欲につながるよう支援する。 ・キャリア・パスポートを掲示する、話し合いを適宜実施するなどして、教員間で生徒の目標や支援方法等の共通理解を図る。 		
	2	学校生活	生徒指導	目標	○幼児児童生徒の発達段階に応じた安全教育の推進及び交通安全、防災・防犯に関わる指導の充実を図り、幼児児童生徒の対応力を高める。
				計画	<ul style="list-style-type: none"> ・教員へ災害や避難行動、交通安全等に関する情報提供を行い、幼児児童生徒への安全教育に生かすことができるようにする。 ・避難訓練の実施について、各学部の実態に応じた防災・防犯体制等について検討したり、訓練後の反省を生かしたりしながら教員間で共通理解を図り、幼児児童生徒が臨機応変に対応できるように指導・支援をする。
保健		目標	○幼児児童生徒の緊急時における救急体制の整備と、対応訓練の充実に努める。		
		計画	<ul style="list-style-type: none"> ・救急体制について、学期に1回行うなど訓練の回数を重ね、いつでもどんな場面でも対応できるように緊急対応訓練を実施する。 ・職員間の共通理解を図るために、様式を統一した緊急時対応カードを作成し設置する。 		

3	進路支援	進路指導	目標	○生徒が自ら進路について考える機会の充実を図るとともに、校内や外部関係者のニーズに合った進路情報の発信に努める。
			計画	・他学部や他学年の進路学習や就業体験での成果をお互いに知ること、生徒が自ら進路について考える機会とする。 ・進路指導の取組について、保護者や外部関係者に分かりやすいように校内掲示を充実させると共に、ホームページの掲載内容の工夫を行う。
4	特別活動	特別活動 重点2	目標	○児童生徒の実態や発達段階に応じた <u>情報モラル教育を推進</u> する。
			計画	・生徒の情報モラルへの意識を高めるために、生徒集会で、動画の事例を基に、 <u>スマートフォンやネットの適切な使用について話し合う機会を設ける。</u> ・生徒会執行委員会が、「富聴総ネットルール」に関する呼び掛けを行い、アンケートを実施する。 ・家庭での情報モラルへの意識を高めるために、幼稚部・小学部では、長期休暇前に <u>情報モラルに関する親子アンケートを実施</u> し、 <u>家庭でのルールづくり</u> に等に結び付ける。
		学校図書館	目標	○図書館の整備と図書館利用の機会の拡充を図る。
			計画	・図書管理システムを活用して、蔵書管理の電子化を進める。 ・学校図書館司書の助言を基に、見やすく借りやすい図書の配置を行う。 ・貸出率が向上するよう、図書委員会で本の紹介や本に興味をもってもらえるような活動を企画する。
5	その他	PTA活動	目標	○PTA活動の活性化に努める。
			計画	・保護者の参加意識が高まるような活動を実施するために、ニーズの把握や日程調整を行う。 ・ホームページや校内掲示を活用してPTA活動の可視化を進める。
		教育相談	目標	○教育相談に関する情報の発信に努め、地域への啓発活動の充実を図る。
			計画	・教育相談を利用している保護者や外部関係教員等に情報収集を行い、ニーズに沿った情報をホームページに掲載する。 ・聴覚障害児担当教員に向けた研修を行い、聴覚障害教育の理解を深めてもらう。
		研修	目標	○キャリア・パスポートの活用を通して、主体的な学びや活動の充実を図る。
			計画	・キャリア教育の視点から、主体的な学びの仕組み方や振り返り活動の効果的な方法を明らかにするための授業研究や事例研究等を行う。 ・キャリア・パスポートを活用することにより、一人一人が自分の変容や成長を自己評価できるようにする。
教育情報 重点3	目標	○ <u>主体的な学びにつながるICT機器を活用しての授業実践を推進</u> する。		
	計画	・各学部に <u>ICT教育推進リーダーを配置し、リーダー間で定期的な研修会を実施して、ICT機器活用のためのスキルアップを図る。</u> ・タブレット端末活用に関する新しい知識や情報を提供する。 ・ <u>授業での活用の工夫が共有できるよう授業検討会等を行う。</u>		

5 今年度の重点課題（学校アクションプラン）

令和3年度 富山聴覚総合支援学校アクションプラン（小学部） - 1 -	
重点項目	学習活動
重点課題	なりたい自分を目指して主体的に学び行動できる児童を育てるための支援の在り方
現 状	<ul style="list-style-type: none"> 小学部では、小学部の段階を「心身共に著しく成長し、将来の自立に向けた基盤を形成する重要な時期」と捉え、一人一人の発達に応じて基礎的基本的な学力、体力、人間性を育てるために日々教育活動に取り組んでいる。 今年度の小学部児童8名の実態は、将来の夢や希望を具体的にもっている児童から、自分の好きなことを探している段階の児童まで様々である。今年度は児童がより主体的に行動できるように、これまでの取組を継続し日々の小さな目標や願いを積み重ねていくとともに、将来の自分と現在の自分をつなげ、なりたい自分に近づくための目標やこれから取り組むことを考えられるよう支援していく必要がある。
達成目標	①児童の自己理解の向上率（※キャリアスキルチェック表を使用して行った自己評価と他者評価の検証による数値向上率とする。）
	②キャリア発達の視点を取り入れた授業の検討回数（※学部でキャリア発達の視点を取り入れた授業改善検討会を行った回数とする。）
	8名全員の向上
	3回以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> 児童と教師で共有できるキャリアスキルチェック表を作成する。 作成したキャリアスキルチェック表を使用し、児童の学ぶ力、関わる力、問題解決力、社会性の段階や課題を明らかにする。児童による自己評価、教師による他者評価をそれぞれ年間2回行い、児童の自己理解の向上を評価する。 一人一人のキャリア発達の段階を踏まえ、児童の主体的な姿を引き出すための教師の支援の在り方について検討する。 児童の主体的で深い学びを支えるためのICT機器活用や体験的な活動等、効果的な学習方法を検討する。

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）

令和3年度 富山聴覚総合支援学校アクションプラン（生徒指導部） - 2 -	
重点項目	特別活動
重点課題	児童生徒の実態や発達段階に応じた情報モラル教育の推進
現 状	<ul style="list-style-type: none"> 本校幼児児童生徒には、ネットゲーム等による生活リズムの乱れ、SNSでのやりとりでの人間関係のトラブル、課金に関するトラブル等、様々な情報モラルに関する課題が年齢を問わずみられる。 本校生徒会では、ネットトラブル防止を目的に「富聴総ネットルール」を策定しているが、生徒会実施のアンケートから、ルールを守られていない現状がみられる。 前年度の保護者・教員対象の学校評価アンケートの結果から、「社会生活のルールやマナー」について課題がみられる。ICT環境の整備が進む中、情報社会で適正な活動を行うための基となる考え方や態度を育む情報モラル教育の充実が求められる。
達成目標	①生徒の情報モラルの意識の向上率（※生徒会執行委員会が中心となって実施するアンケート結果の検証による数値向上率とする。）
	②ホームページでの情報発信及び親子アンケートの実施（※情報モラルに関する生徒の取組のホームページへの掲載及び幼稚部・小学部の各家庭対象の「情報モラル親子アンケート」の実施回数とする。）
	80%以上
	各2回
方 策	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の主体的な情報モラル遵守意識や対応力を高めるため、生徒集会で動画の事例を基に、スマートフォンやネットの適切な使用についてワークシートを活用し、グループで話し合う機会を設ける。 生徒自身の自覚・自律を促すことができるように生徒会執行委員会が「富聴総ネットルール」に関する呼び掛けを行い、生徒向けアンケートを2回実施する。 ホームページで生徒の情報モラルに関する取組の紹介をするとともに、パンフレットや学部便りでゲームやスマートフォンの適切な使用等、情報モラルの内容について家庭に情報の提供を行う。 幼稚部・小学部で、長期休暇前に幼児児童に向けて情報モラルに関する講話や「情報モラル親子アンケート」を実施し、家庭でのルールづくり等に結び付ける。

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）

重点項目	その他 (教育情報)	
重点課題	主体的な学びにつながるICT機器を活用した授業実践の推進	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・GIGAスクール構想等が加速して、児童生徒教員に1人1台タブレットが配置される。 ・県立学校教育ネット再整備及びICT教育推進事業により、複数のICT機器が配備され、無線LAN環境が整備されるなど、校内のICT環境が整ってきた。 ・Microsoft Teams、Zoom、Google Meet等を活用したオンライン会議が一般化してきた。 ・教員のICT機器の知識・技能には個人差があり、一人一人の教員がICT機器をより効果的に活用して授業を行うためには、知識や技能の向上が必須である。 	
達成目標	①ICT教育推進リーダーが行う研修会の実施回数 (※各学部にICT教育推進リーダーを設け、定期的な研修会を実施する。)	②文部科学省の「教員のICT活用指導力等に関する調査」16項目の合計平均点 (※16項目合計64点、前年度の平均点は、50.6点である。各項目は「できる4、ややできる3、あまりできない2、ほとんどできない1」の4段階評価)
	5回以上	56点以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT教育推進リーダーの一人一人が個人目標を設定し、年度末に自己評価を行う。 ・ICT機器の効果的な活用法や授業で活用できるアプリケーションを調べ、情報交換を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業でICT機器をより効果的に活用できるよう研修会や授業検討会を行い、情報を共有する。 ・最新のICT情報が周知できるよう授業で活用可能なアプリケーション・ソフトウェアや情報モラルに関する事例等を校内研修会やグループウェアで紹介する。

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)